

# 幼稚園児における偏食傾向の追跡調査

## 埼玉県立教員養成所 立川多恵子

目的 園児の偏食を1年間追跡的に調査して、子どもの食生活の問題点を知らるとともに、併行して偏食相談を行い、幼児期における偏食の実態を究明し、その対策を研究しようとした。

方法 A幼稚園(大学付属)38名、B幼稚園(旧住宅街)96名、C幼稚園(新興住宅地)118名、計252名を対象にして、5月、11月、2月の3回に亘って、質問紙による追跡調査を行った。その中、B幼稚園については、オ1回の調査後、2回に亘って、子どもの偏食で悩んでいる母親に面接し指導した。

結果 ① 追跡調査の結果、3回とも完全に追跡できた子どもの数は、全体の41%であり、その内訳は、A幼稚園が71.1%、B幼稚園は42.7%、C幼稚園は30.5%であり、三者の間に調査に対する関心の相異が認められた。② 集計の結果は、何回目かの調査で、「きらいな食物が多い」または、「きらいな食物が少しある」と回答したものが90%あった。子どもの発達に伴う正常な転移であると考えた。③ 3回継続して、「きらいな食物はない」と回答したものが全体の14.4%であり、その内訳は、58名は夕食、または食欲不振があり、食事問題のないのは8.6%であった。④ B幼稚園の場合は、オ1回の調査で、「きらいな食物が多い」と回答したものは、24.4%であり、そのうちの80%が相談に来ている。2回に亘る面接相談の結果、オ2回調査では75%が好転した。一時くずれたCaseもあるが、1年後、再び面接した結果89%は好転している。⑤ 偏食相談から、子どもの食事の問題は親の養育態度と関係があると考えられる。